

対象施設の紹介

資料 4

対象施設(計 20 施設)

【乗り物】6 施設

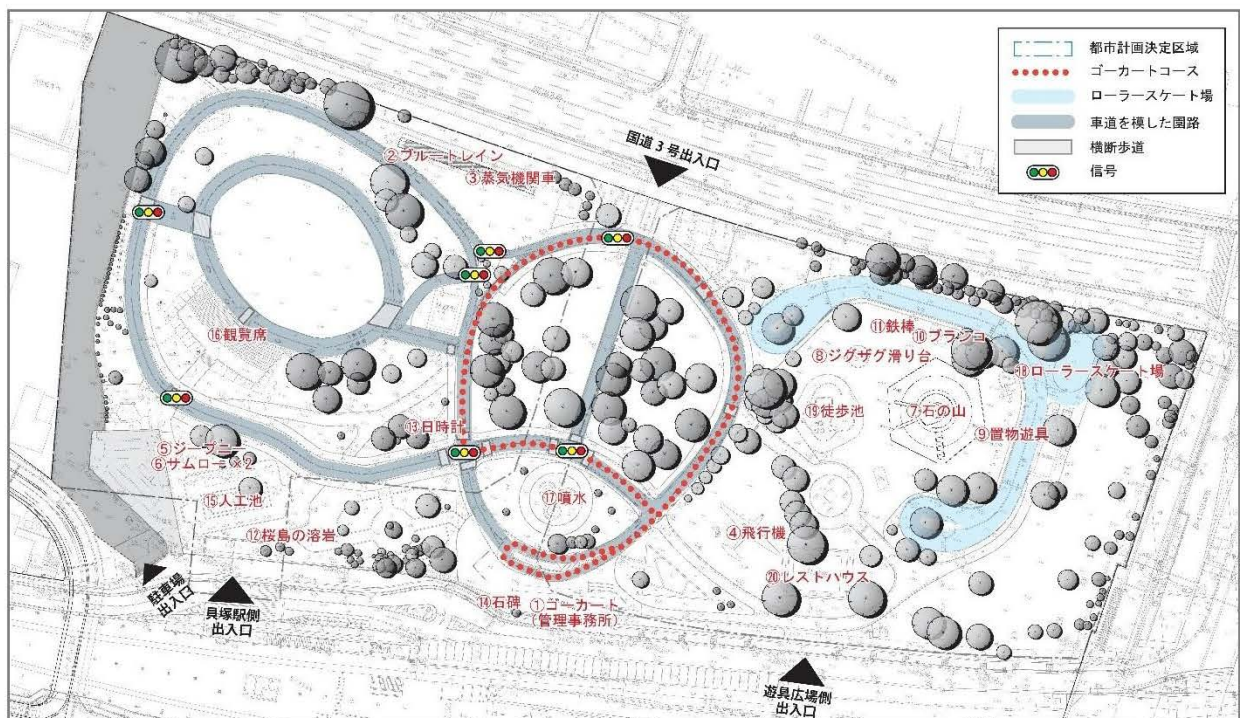
- ①ゴーカート、②ブルートレイン、③蒸気機関車、④飛行機、⑤ジープニー、
⑥サムロー×2

【遊 具】5 施設

- ⑦石の山、⑧ジグザグ滑り台、⑨置物遊具、⑩ブランコ、⑪鉄棒

【その他】9 施設

- ⑫桜島の溶岩、⑬日時計、⑭石碑、⑮人工池、⑯観覧席、⑰噴水、
⑱ローラースケート場、⑲徒渉池、⑳レストハウス



施設位置図

1 ゴーカート

(1) 施設概要と設置の背景

1) 規模・規格

コース長 330m(設置当初(昭和 48 年)は 631mであった)

信号 35 基、標識 46 基、電動ゴーカート 5 台



2) 整備年

1973 年(昭和 48 年)からゴーカート運営が始まる。当初はバッテリーゴーカート 33 台が寄付され、さらに足踏みゴーカート 10 台が整備された。次に、1978 年(昭和 53 年)にゴーカート 30 台と足踏みゴーカート 10 台が寄付された記録がある。そして、1997 年(平成 9 年)にも購入の記録(台数不明)がある。

現状は電動ゴーカート 5 台が稼働している。

3) 設置の背景

不明。

貝塚公園は交通公園として整備されたことから、児童が交通知識及び交通道徳を楽しみながら会得することを目的としてゴーカートが設置されたと推測される。

ゴーカートの関連施設として、管理事務所、ゴーカートのコース、信号機等が整備されている。コースには横断歩道も整備されており、子どもたちの交通ルールを学ぶ場となっている。

現在は、シルバー人材センターに運営委託しており、交通学習を実施している。

4) 補修歴

特になし。

故障したゴーカートの部品を転用しながら維持している。

5) 特徴・価値

当該施設は、現在販売しているゴーカート(幼児用)より走行速度が速いため、危険性が高い。(エーツーレジャー)

(2) 現地踏査

1) 利用者数

利用者数は、平日が 100 人、休日が 446 人、計 546 人であった。利用者層は小学生以下に限られ、中でも未就学児童と小学校低学年の利用がほぼ半々である。時間帯としては、平日は 13-16 時が多く、休日は 11-17 時の間がまんべんなく多い。



2) 利用者・見学者数

平日の利用者数(100 人)であり、20 施設中 5 位である。

休日の利用者数(446 人)であり、20 施設中 3 位である。

合計の利用者数(546 人)であり、20 施設中 3 位である。

3) 利用者アンケート調査

貝塚公園の利用目的で「ゴーカート」を挙げた人は 56 人であった。

また、自由意見として以下の意見が挙げられた。

- ・ゴーカートがお気に入り(43 件) (交通ルールが学べる、安い等)
- ・初めてきました。ゴーカート目当てに来ましたが、ちびっこがたくさん並んでいて人気でびっくりしました。子どもも楽しめたようなので、また利用したい
- ・ゴーカートのコースをのばしてほしい。
- ・ゴーカートの再整備(9 件)

4) インターネット検索調査

インターネット検索調査内でのゴーカートの出現数は 197 件であった。

好評意見：ゴーカートに乗って交通ルールを学べる (72 件)

ゴーカート 1 回 50 円 (45 件)

その他意見：ゴーカートに乗れる (28 件)

(3) 施設の劣化状況等

利用開始から 30 年程度経過しており、車両は老朽化し、電気系統も古くなっていると予想される。(エーツーレジャー)

2 ブルートレイン

(1) 施設概要と設置の背景

1) 規模・規格

かいもん ナハネフ 22

博多～西鹿児島間を運転した車両であり、薩摩半島の開聞岳にちなみ「かいもん」と名付けられた。「ナハネフ 22」は型式である。

【解説サインから転記】

車内スペースをいっぱい取るため、背の高いかまぼこ状の屋根になっています。片側には車掌室が設置され、もう一方は展望車のように、走り去る景色が存分に味わえるようになっています。定員は 48 名。寝台は上中下段向かい合わせを 1 ボックスとして、8 ボックス設置されています。

【解説サイン（撤去済み）から転記】

- 1、型式 ナハネフ 22
- 2、製造年月 昭和 40 年 4 月
- 3、総重量 30.0 t
- 4、全長 20.5M

※この寝台車は、特急「あさかぜ」「はやぶさ」（東京⇄博多）急行「かいもん」（門司⇄鹿児島）として活躍していました。



2) 整備年

1990 年（平成 2 年）

3) 設置の背景

JR 九州旅客鉄道株式会社から無償貸与により設置した。

【解説サインから転記】

ブルートレイン急行 かいもん

この車両は、国鉄 20 系特急列車用客車の先頭車両です。飛行機が一般的でなかった高度経済成長期（昭和 40 年代頃）に、博多と東京を結ぶ寝台特急「あさかぜ」号などに使用されました。

寝台特急「あさかぜ」号は、松本清張の小説「点と線」の中でも重要なシーンに登場する事で有名です。ブルートレインという愛称がつくきっかけとなったこの列車は、当時、全車冷暖房完備で食堂車も連結し『走るホテル』とも呼ばれ、あこがれの列車でもありました。

晩年は九州の門司港と西鹿児島（現在の鹿児島中央）間を結ぶ寝台急行「かいもん」として活躍し、現在に至っております。なお、この先頭車両は、さいたま市の「鉄道博物館」にある 1 両とあわせ 2 両が現存するのみです。

平和と幸福への願いが込められたかのような丸みを帯びた美しいデザインやカラーリングは、世代を超えいまだに多くの人を魅了しています。

5) 特徴・価値

- ・本施設は、寝台車の先駆けで初代ブルートレインであるため、大変貴重なものである。(九州鉄道記念館)
- ・公園に野ざらしにしておくようなものではなく、博物館などに展示するレベルの価値がある。引き続き公園に置くのであれば、最低でも屋根などを設置した方が良い。(ワンマイル)

(2) 現地踏査

1) 利用者数

利用者数は、平日が 71 人、休日が 213 人、計 284 人であった。利用者層は大人が多く 53%、次いで未就学児童が 25%であった。時間帯としては、平日は 9-10 時が最も多く、休日は 10-11 時と 12-13 時が多い。



2) 利用者・見学者数

平日の利用者数(71 人)であり、20 施設中同数で 7 位である。
休日の利用者数(213 人)であり、20 施設中同数で 7 位である。
合計の利用者数(284 人)であり、20 施設中同数で 7 位である。

3) 利用者アンケート調査

貝塚公園の利用目的で「電車等」を挙げた人は 2 人であった。
また、自由意見として以下の意見が挙げられた。

- ・SL 等がお気に入り (6 件)
- ・ブルートレインの開放日が多いと有難いです

4) インターネット検索調査

インターネット検索調査内でのブルートレインの出現数は 220 件であった。

好評意見：間近で電車を見ることができるのは楽しい (5 件)
懐かしいブルートレイン 20 系がかなり綺麗に保存され素晴らしい (2 件)
その他意見：「ブルートレイン」の車内を特別公開 (11 件)



(3) 施設の劣化状況等

2012 (H24) 年と 2019 (R2) 年に改修を行っており、さらに年 2 回の車内公開イベントの際に清掃を行うため、車両は比較的キレイであるが、部分的に塗装剥離がある。

なお、2023 (R5) 年度調査にて床下全体にアスベスト(アンダーシール)らが確認されたが、飛沫の恐れはないとして経過観察を行っている。

1) 補修歴

1999 年 (H11) 3 月 26 日	破損部材取替 塗装
2009 (H21) 年 12 月 22 日	アスベスト調査
2010 (H22) 3 月 23 日～3 月 24 日	アスベスト撤去
2012 (H24) 年	有志の民間団体により改修
2013 (H25) 年 5 月 27 日	アスベスト調査
2013 (H25) 年 8 月～9 月	車両周りに柵並びに、ブルートレイン車内に繋がる階段設置
2019 (R1) 年	有志の民間団体により改修(クラウドファンディング)
2022 (R4) 年 12 月 25 日	アスベスト調査を実施し、床下部のアンダーシールにアスベストらしき物が発見。なお、アンダーシールは飛沫の恐れなしとして経過観察
2024 (R6) 年 3 月	床下全体にアスベスト(アンダーシール)らしきものが確認された

3 蒸気機関車

(1) 施設概要と設置の背景

1) 規模・規格

SL9600 形 49627 号機

蒸気機関を動力とする機関車のことを Steam Locomotive の頭文字をとって、SL（エスエル）と呼ぶ。9600 形は型式であり、49627 号機は 428 番目の機体であることを示す。ちなみに、1 番目の機体は 9600 号機、2 番目の機体は 9601 号機、101 番目の機体は 19600 号機である。

【解説サイン(撤去済み)から転記】

機関車

1、型式 10 過熱テンダ機関車 9600

2、製造年月 大正 9 年 7 月

3、総重量 94.8 t

4、全長 16.5m

※この機関車は、長い間主に石炭輸送に活躍していた。



2) 整備年

1974 年（昭和 49 年）

3) 設置の背景

国鉄（現：JR 九州旅客鉄道株式会社）から無償貸与により設置した。

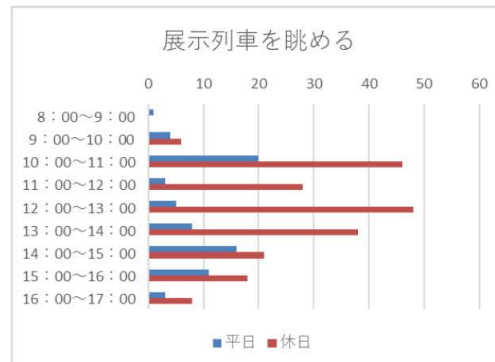
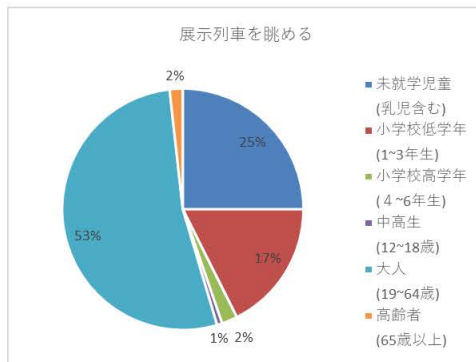
4) 特徴・価値

本施設は主に石炭輸送に活躍していた車両であり、かつては吉塚の県庁あたりに車両基地があったことから、親しみのある方もいると思われる。（九州鉄道記念館）

(2) 現地踏査

1) 利用者数

利用者数は、平日が 71 人、休日が 213 人、計 284 人であった。利用者層は大人が多く 53%、次いで未就学児童が 25%であった。時間帯としては、平日は 9-10 時が最も多く、休日は 10-11 時と 12-13 時が多い。



2) 利用者・見学者数

平日の利用者数(71 人)であり、20 施設中同数で 7 位である。

休日の利用者数(213 人)であり、20 施設中同数で 7 位である。

合計の利用者数(284 人)であり、20 施設中同数で 7 位である。

3) 利用者アンケート調査

貝塚公園の利用目的で「電車等」を挙げた人は 2 人であった。

また、自由意見として以下の意見が挙げられた。

- ・SL 等がお気に入り(6 件)

4) インターネット検索調査

インターネット検索調査内での SL の出現数は 106 件であった。

好評意見：機関車の実物があつたりして楽しめた (5 件)

(3) 施設の劣化状況等

1999 (H11) 年に破損部材を取替え、2008 (H20) 年に塗装を行っているが、部分的に塗装剥離や錆等の進行が見られる。

車両のアスベストについては、撤去もしくは封じ込め処置を完了している。

1) 補修歴

1999 年 (H11) 3 月 26 日	破損部材取替 塗装
2005 (H17) 年 9 月 10 日	アスベスト調査実施
2005 (H17) 年	正面扉と車体の隙間、鋼管接手部分などのアスベストを封じ込め処置
2008 (H20) 年 12 月 7 日～ 2009 (H21) 年 2 月 24 日	塗装
2009 (H21) 年 12 月 22 日	アスベスト調査
2010 (H22) 3 月 23 日～3 月 24 日	アスベスト撤去
2013 (H25) 年 5 月 27 日	アスベスト調査
2013 (H25) 年 8 月～9 月	車両周りに柵並びに階段設置
2022 (R4) 年 12 月 25 日	アスベスト調査を実施し、煙室戸のパッキン部にアスベストらしき物が発見
2023 (R5) 年 10 月 20 日	煙室戸のパッキン部のアスベストを封じ込め処置
2024 (R6) 年 3 月	車両のアスベストについては、撤去もしくは封じ込め処置を完了している

4 飛行機

(1) 施設概要と設置の背景

1) 規模・規格

DH114-1 型 ヘロン (JA6159)

全長:14.78m 全幅:21.80m 全高 4.75m 操縦乗員:2 乗客:14(最大)(Wikipedia より)

ヘロンはイギリスのデ・ハビランド (de Havilland Aircraft Company) が開発した 4 発レシプロ旅客機である。日本においても 1950 年代に近距離旅客機として運用されていた。(Wikipedia より)



2) 整備年

1968 年 (昭和 43 年)

3) 設置の背景

東亜航空(現:日本航空株式会社)から寄付により設置した。

貝塚公園整備当時、交通公園の展示物として広島空港から分解・運搬し現地に設置した。

4) 補修歴

破損部材取替 塗装(1999 年(H11)3 月 26 日)

5) 特徴・価値

- ・現存するのは広島市にあるものと貝塚公園にあるもの 2 機だけである。
- ・今の状態で航空機としての価値はほとんどない。(日本航空株式会社)

(2) 現地踏査

1) 利用者数

利用者数は、平日が 11 人、休日が 125 人、計 136 人であった。利用者層は大人が多く 51%、次いで未就学児童が 30%となっている。他の施設に比べ、高齢者の割合が大きい。時間帯としては、平日はあまり差がなく、休日は 14-15 時が多い。



2) 利用者・見学者数

平日の利用者数(11 人)であり、20 施設中 14 位である。

休日の利用者数(125 人)であり、20 施設中 10 位である。

合計の利用者数(136 人)であり、20 施設中 11 位である。

3) 利用者アンケート調査

貝塚公園の利用目的で「飛行機」を挙げた人は 1 人であった。

また、自由意見として以下の意見が挙げられた。

- ・飛行機がお気に入り (3 件)

4) インターネット検索調査

インターネット検索調査内での飛行機の出現数は 141 件であった。

好評意見：飛行機と寝台列車も展示されているので子供も大人も楽しめる (5 件)

不評意見：防護柵に囲われた中は雑草が生えている (4 件)

塗装は結構劣化している (4 件)

その他意見：乗り物を間近で見ることができる (5 件)

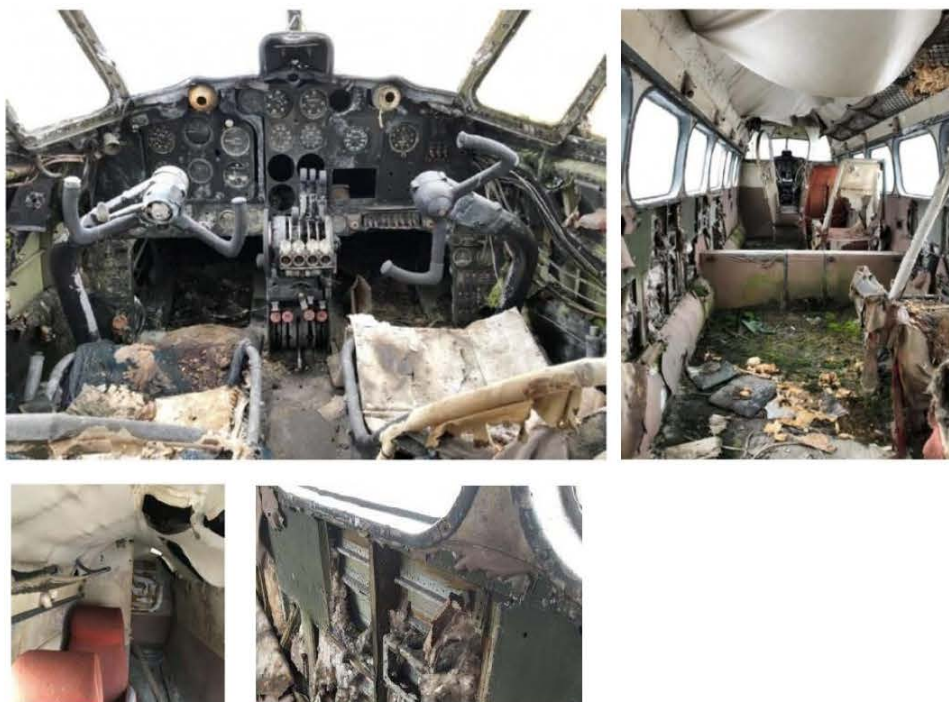
(3) 施設の劣化状況等

1999（H11）年に破損部材を取替え、塗装を行っているが、塗装剥離、鋼材の腐食など機体の損傷が著しい。機体強度が不明のため、機体に近づくことは危険性が高い。また窓が変形し雨が機内に侵入し、内部損傷も激しく、見学できる状態にするのは困難である。なお、東区役所にて施設点検を行った結果、「危険」と判断したため、周囲に人止め柵を設け、来園者が近づけないよう措置をしている。

▼外部の状況（2020年2月28日撮影）



▼内部の状況（2020年2月28日撮影）



5 ジープニー

(1) 施設概要と設置の背景

1) 規模・規格

全長 5.5m 車幅 1.6m

フィリピン:乗合自動車

屋根付きの展示場における屋外展示である。

【解説サインから転記】

本展示物は、アジア太平洋博覧会・福岡'89（1989年3月17日～9月3日）会場で展示されていたものです。

ジープニー（フィリピン）

フィリピンを代表する乗合自動車。日本製のディーゼルエンジンをそなえ、ボディには馬や鳥などいろいろな飾が取り付けられます。18人乗り、総排気量 2400cc。

全長 5.5m 車幅 1.6m 車高 2.2m<1台>



2) 整備年

1989年（平成元年）

3) 設置の背景

アジア太平洋博覧会・福岡'89の会場で展示された車両で、交通公園の展示物としてアジア太平洋博覧会協会の寄贈により設置した。

4) 補修歴

記録なし

5) 特徴・価値

- ・このタイプの車は、日本製のエンジンを搭載しながら、現地で様々な改造がなされており、珍しいものではない。（九州自動車歴史館）

(2) 現地踏査

1) 利用者数

利用者数は、平日が 14 人、休日が 70 人、計 84 人であった。利用者層は大人が多く 54%、次いで未就学児童が 24%となっている。時間帯としては、平日は 14-15 時が多く、休日は 16-17 時が多くなっている。



2) 利用者・見学者数

平日の利用者数(14 人)であり、20 施設中同数で 12 位である。

休日の利用者数(70 人)であり、20 施設中同数で 14 位である。

合計の利用者数(84 人)であり、20 施設中同数で 14 位である。

3) 利用者アンケート調査

利用者アンケートには名前は上がらなかった。

4) インターネット検索調査

インターネット検索調査内でのジープニーの出現数は 9 件であった。

好評意見：普段目にしないものなので、見ていて楽しい (1 件)

その他意見：フィリピンの乗合自動車ジープニーが展示されている (4 件)

(3) 施設の劣化状況等

塗装剥離や粉塵の付着、飾り等車両の劣化が進んでいる。長年動かしていないのでエンジンは始動しないと推測される。部品の入手は難しく、かつ修理ができる技術者が減少していることから、走らせることは困難である。(九州自動車歴史館)

6 サムロー×2

(1) 施設概要と設置の背景

1) 規模・規格

全長 2.5m 車幅 1.2m 車高 1.75m

タイ:乗合オート三輪車

屋根付きの展示場における屋外展示である。

【解説サインから転記】

本展示物は、アジア太平洋博覧会・福岡'89（1989年3月17日～9月3日）会場で展示されていたものです。

サムロー（タイ）

タイで使われている乗合オート三輪車。バンコクでは市民の足として親しまれています。日本製の小型エンジンをそなえ、2～3人の客を乗せてスイスイと走り回っています。総排気量 360cc

全長 2.5m 車幅 1.2m 車高 1.75m<2台>



2) 整備年

1989年（平成元年）

3) 設置の背景

アジア太平洋博覧会・福岡'89の会場で展示された車両で、交通公園の展示物としてアジア太平洋博覧会協会の寄贈により設置した。

4) 補修歴

記録なし

5) 特徴・価値

・このタイプの車は、日本製のエンジンを搭載しながら、現地で様々な改造がなされており、珍しいものではない。（九州自動車歴史館）

(2) 現地踏査

1) 利用者数

利用者数は、平日が 14 人、休日が 70 人、計 84 人であった。利用者層は大人が多く 54%、次いで未就学児童が 24%となっている。他の遊具に比べ、大人の割合も多い。

時間帯としては、平日は 14-15 時が多く、休日は 16-17 時が多くなっている。



2) 利用者・見学者数

平日の利用者数(14 人)であり、20 施設中同数で 12 位である。

休日の利用者数(70 人)であり、20 施設中同数で 14 位である。

合計の利用者数(84 人)であり、20 施設中同数で 14 位である。

3) 利用者アンケート調査

利用者アンケートには名前は上がらなかった。

4) インターネット検索調査

インターネット検索調査内でのサムローの出現数は 12 件であった。

その他意見：サムローが展示されている (6 件)

(3) 施設の劣化状況等

塗装剥離や粉塵の付着、シーートの破損等の劣化が進んでいる。長年動かしていないのでエンジンは始動しないと推測される。部品の入手は難しく、かつ修理ができる技術者が減少していることから、走らせることは困難である。(九州自動車歴史館)

7 石の山

(1) 施設概要と設置の背景

1) 規模・規格

面積 333.9 m² (CAD 計測)

高さ 3.5m (山の高さ)

(遊具の特徴)

- ・登り方が「石の突起やくぼみを使う」「山の斜面を駆け上がる」「鎖を使う」「階段」など幾通りもの方法がある。
- ・すべり台（高さ 3.5m）が 2 本ある。
- ・3.5m の高さからの見晴らしが楽しめる。
- ・3.5m の山の頂上にジャングルジムがある。



2) 整備年

1967 年（昭和 42 年）

3) 設置の背景

不明。

4) 補修歴

記録なし

躯体のひび割れの補修跡あり（時期不明）

(2) 現地踏査

1) 利用者数

利用者数は、平日が 269 人、休日が 1109 人、計 1378 人であった。利用者層は小学校低学年が多く 33%、次いで未就学児童が 24%となっている。時間帯としては、平日は 14~15 時が多く、休日は 10 時以降まんべんなく多い。



2) 利用者・見学者数

平日の利用者数(269 人)であり、20 施設中 1 位である。

休日の利用者数(1109 人)であり、20 施設中 1 位である。

合計の利用者数(1378 人)であり、20 施設中 1 位である。

3) 利用者アンケート調査

貝塚公園の利用目的で「石の山」を挙げた人は 15 人であった。

また、自由意見として以下の意見が挙げられた。

- ・石の山がお気に入り(6 件)(石の山が珍しい、すべり台の角度が急で良い等)
- ・石の山危ない
- ・遊具がお気に入り(16 件)(他の所にはない遊具がある、遊具がたくさんある等)
- ・遊具が古い(6 件)
- ・新しい遊具が欲しい。(13 件)
⇒幼児向け遊具(5 件)

4) インターネット検索調査

インターネット検索調査内での石の山の出現数は 42 件であった。

好評意見：色んな遊び方をして楽しんでいる子どもたちがたくさんいる(13 件)

(3) 施設の劣化状況等

躯体はコンクリート構造で、部分的にクラックが生じているなど、全体的な劣化が進んでいる。当該施設は、以下の項目が「遊具の安全に関する規準」(安全規準：(一社)日本公園施設業協会 2024 年 4 月)に抵触している。(一社)日本公園施設業協会)

安全規準		現況
【安全領域】 子どもが落下したり、飛び出したりしたときに到達すると想定される範囲のこと。この範囲内に硬い設置面や凹凸のある設置面、石やガラス等の異物、障害物などがあってはいけない。	遊具の外形から全方向に 1,800mm 以上を確保すること。ただし、半分領域重複可。	1,000mm
	コンクリート・アスファルトなどの固い設置面でないこと。	コンクリート製である
	くぼみ・段差・石ころなどの障害物がないこと。	くぼみ、段差がある
【動線】 配置計画にあたっては、利用動線の交差や異なる対象年齢の遊具の混在を避けること。	動線および動線エリアの交差はないこと。	交差する
	足がかりや落下した際の障害物はないこと。	障害物がある
【規準一般規定】		
①頭部・胴体の挟み込み 開口部は「胴体が入らない」もしくは「胴体が入ったら頭部も容易に抜ける」構造であること。	「胴体が入らない構造」：点検器具 A (φ127 mm の部分) や点検器具 B (100×157 mm) が入らないこと。	リングトンネルや階段、ステップが NG
	「胴体が入ったら頭部も容易に抜ける構造」：点検器具 A (230 mm の部分) が通り抜けること。	
	生命に関わる危険があるか、重度の傷害あるいは恒久的な障害をもたらすハザードに該当する箇所がないこと。	あり
②頭部または首の挟み込み	頭部または首が挟まって抜けなくなるような V 字型開口部がないこと。	階段側面にある
④絡まり・引っ掛かり	不意に衣服の一部やカバンのヒモ等が絡まったり引っ掛かったりしないこと。	ジャングルジム
⑤衝突・転倒	衝突する障害物や、転倒の原因となるような転倒突出部や段差を設けないこと。	軽度の傷害をもたらすハザードあり
	衝突・転倒が想定される場合、衝撃緩和への配慮を行うこと。	配慮なし
⑥ボルト・ナット類による突起	引っ掛かり防止対策を行うこと。	対策なし
	直接衝突の危険がある、ボルト・ナット類の突出対策を行うこと。	対策なし
⑦鋭利な尖端・角・縁	鋭利な尖端・角・縁がないこと。	あり
⑧転落・落下	落下防止柵 1,100mm 以上を確保すること。	620mm

安全規準			現況
		手すり子のスキマは 100mm 未満にすること。	100 mm以上 あり
	⑨階段・はしご(共通)	落下高さは幼児用 2,000mm 以下、児童用 3,000mm 以下とすること。	3,500mm
		段差間には頭部・胴体の挟み込みがないこと。	あり
		手すり子には頭部・胴体の挟み込みがないこと。	あり
	⑪基礎の設計	生命に関わる危険があるか、重度の傷害あるいは恒久的な障害をもたらさうるハザードに該当する箇所がないこと。	あり
【規準一般規定】	落下高さは、幼児用では 2,000mm 以下とすること。	3500 mm	
	落下高さは、児童用では 3,000mm 以下とすること。	3500 mm	
【規準】			
滑降部	傾斜角度は 45°（60°）以下とし、平均で 35° 以下とすること。	重大であるが恒久的ではない傷害をもたらさうるハザードあり	
滑降面	安全を阻害するようなへこみや突起物などがいないこと。	あり	
	利用による摩耗及び衝撃に十分耐えられるものとする。	軽度の傷害をもたらさうるハザードあり	
	継ぎ目が生じる時は、隙間・段差が無く滑らかな表面仕上げとすること。	重大であるが恒久的ではない傷害をもたらさうるハザードあり	
側壁	落下高さ 2,000mm を超える時、落下防止対策をすること。	対策なし	
減速部	減速部の長さは安全に着地できる長さとする。	重大であるが恒久的ではない傷害をもたらさうるハザードあり	
	着地面から終端上端部までの高さは児童用 150～380mm とすること。	100mm	

8 ジグザグ滑り台

(1) 施設概要と設置の背景

1) 規模・規格

高さ約 3.0m、砂場直径 6.5m

(遊具の特徴)

- ・変わった形のすべり台
- ・登り口がトンネルになっており、梯子で登る。



2) 整備年

1985 年（昭和 60 年）

3) 設置の背景

姉妹都市記念としてオークランドの贈与により設置した。

【本体表示から転記】

このすべり台は、福岡市とアメリカのオークランド市が姉妹都市を結んで 20 年たったことを記念して、オークランド市から贈られたものです。福岡市からは石灯籠を贈りました。

1985 年 3 月設置＜姉妹都市を結んだ日は、1962 年 10 月 13 日です＞

4) 補修歴

記録なし。

(2) 現地踏査

1) 利用者数

利用者数は、平日が 112 人、休日が 272 人、計 384 人であった。利用者層は未就学児童が多く 45%、次いで小学校低学年が 41%となっている。時間帯としては、平日は 10 時以降あまり差がないのに対し、休日は 16-17 時が多い結果となった。



2) 利用者・見学者数

平日の利用者数(112 人)であり、20 施設中 3 位である。

休日の利用者数(272 人)であり、20 施設中 4 位である。

合計の利用者数(384 人)であり、20 施設中 4 位である。

3) 利用者アンケート調査

貝塚公園の利用目的で「すべり台」を挙げた人は 12 人であった。

また、自由意見として以下の意見が挙げられた。

- ・すべり台がお気に入り (2 件)
- ・すべり台、はしご怖い
- ・遊具がお気に入り (16 件) (他の所にはない遊具がある、遊具がたくさんある等)
- ・遊具が古い (6 件)
- ・新しい遊具が欲しい。 (13 件)
⇒幼児向け遊具 (5 件)

4) インターネット検索調査

インターネット検索調査内でのジグザグすべり台の出現数は 9 件であった。

好評意見：子供たちに親しまれている (2 件)

(3) 施設の劣化状況等

出発部や滑降部の一部に腐食が見られる。当該施設は、以下の項目が安全規準（（一社）日本公園施設業協会 2024 年 4 月）に抵触する。（（一社）日本公園施設業協会）

安全規準		現況
【安全領域】	滑り降り口方向は、2,000mm 以上を確保すること。全領域重複不可	0mm
	その他方向は 1,800mm 以上を確保すること。ただし、半分領域重複可	0mm
【規準一般規定】		
①頭部・胴体の挟み込み	「胴体が入らない構造」:点検器具 A(φ127 mmの部分)や点検器具 B(100×157 mm)が入らないこと。 「胴体が入ったら頭部も容易に抜ける構造」:点検器具 A(230 mmの部分)が通り抜けること。	はしご等が NG
	生命に関わる危険があるか、重度の傷害あるいは恒久的な障害をもたらすハザードに該当する箇所がないこと。	あり
③指の挟み込み	子供の指が抜けなくなるようなφ8 mmの丸棒が入り、φ25 mmの丸棒が入らない隙間や穴がないこと。	あり
④絡まり・引っ掛かり	不意に衣服の一部やカバンのヒモ等が絡まったり引っ掛かったりしないこと。	あり
⑤衝突・転倒	衝突する障害物や、転倒の原因となるような転倒突出部や段差を設けないこと。	該当箇所あり
	衝突・転倒が想定される場合、衝撃緩和への配慮を行うこと。	対策なし
⑥ボルトナット類による突起	引っ掛かり防止対策を行うこと。	対策なし
	直接衝突の危険がある、ボルト・ナット類の突出対策を行うこと。	対策なし
⑦鋭利な尖端・角・縁	鋭利な尖端・角・縁がないこと。	あり
⑧転落・落下	落下防止柵 1,100mm 以上を確保すること。	960mm
⑨階段・はしご(共通)	段差間には頭部・胴体の挟み込みがないこと。	あり
⑨横棒はしご	横棒の長さは幼児用 300mm 以上、児童用 400mm 以上とすること。	330mm
⑩救助対策	救助対策は、大人が補助したり、救助することができる構造とすること。	対策なし
⑪基礎の設計	基礎の天端の土被りを 100mm 以上確保する	0mm

安全規準			現況
		こと。	
		基礎の露出がないこと。	あり
		生命に関わる危険があるか、重度の傷害 あるいは恒久的な障害をもたらすハ ザードに該当する箇所がないこと。	あり
【規準】			
	出発部	着座姿勢に導くガイドバーを設けるこ と。	ガイドバー なし
	側壁	落下防止対策を行うこと。	対策なし

9 置物遊具

(1) 施設概要と設置の背景

1) 規模・規格

動物を模したオブジェ 10 基。

北側からクジラ、カタツムリ、ゾウ、カメ、リス、ウサギ、カメ、カバ、タコ、ワニのデザインになっている。

四角状のもの(クジラ、タコ等) : L=1.3m、W=0.5m、H=1.0m程度

丸状のもの(リス、ウサギ等) : L=1.0m、W=0.5、H=0.5m程度

大きさは動物ごとに異なる。



2) 整備年

1980 年 (昭和 55 年)

3) 設置の背景

ロータリークラブからの寄贈により設置した。

なお、どこのロータリークラブによるものかは分からない。

4) 補修歴

記録なし。

再塗装が行われている。(時期不明)

(2) 現地踏査

1) 利用者数

利用者数は、平日が 57 人、休日が 190 人、計 247 人であった。利用者層は未就学児童が多く 73%、次いで小学校低学年が 19%となっている。時間帯としては、平日は 14-15 時が多く、休日は 11 時以降からまんべんなく多い。



2) 利用者・見学者数

平日の利用者数(57人)であり、20施設中9位である。

休日の利用者数(190人)であり、20施設中9位である。

合計の利用者数(247人)であり、20施設中9位である。

3) 利用者アンケート調査

貝塚公園の利用目的で「置物」を挙げた人は1人であった。

また、自由意見として以下の意見が挙げられた。

- ・遊具がお気に入り(16件)(他の所にはない遊具がある、遊具がたくさんある等)
 - ・遊具が古い(6件)
 - ・新しい遊具が欲しい。(13件)
- ⇒幼児向け遊具(5件)

4) インターネット検索調査

インターネット検索調査内での置物遊具の出現数は3件であった。

好評意見：動物モチーフの可愛い遊び場もあるので低年齢の子どもにもおすすめ(1件)

(3) 施設の劣化状況等

躯体の端部が欠け、鉄筋が露出しており、塗装剥離があり全体的な劣化が進んでいる。

当該施設は、以下の項目が安全規準((一社)日本公園施設業協会 2024年4月)に抵触する。((一社)日本公園施設業協会)

安全規準		現況
【安全領域】	遊具の外形から全方向に1,500mm以上を確保すること。全領域重複可	930mm

10 ブランコ

(1) 施設概要と設置の背景

1) 規模・規格

4連ブランコ 幅 2.85m×2 外柵幅 6.0m、奥行き 5.0m



2) 整備年

不明。

なお、遊具の安全規準における鉄製遊具の標準使用期間 15 年を超えており躯体や座板の状態、安全マットの設置などから更新されていると考えられる。

3) 設置の背景

不明。

4) 補修歴

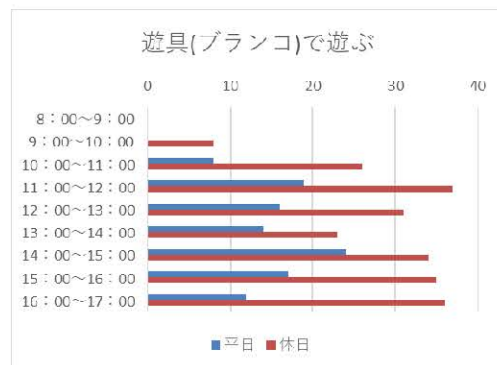
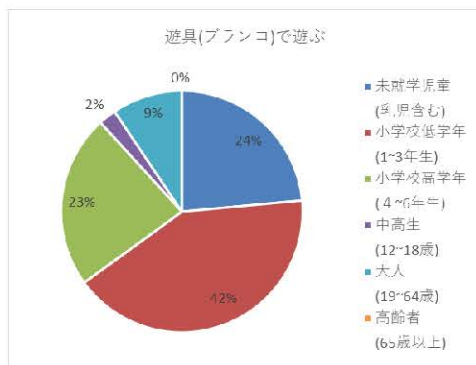
令和 6 年補修予定

(2) 現地踏査

1) 利用者数

利用者数は、平日が 110 人、休日が 230 人、計 340 人であった。利用者層は小学校低学年が多く 47%、ついで小学校未就学児童が 24%、小学校低学年が 23%となっている。

時間帯としては、平日は 14-15 時が多いが、あまり差は見られない。休日は 11 時以降からまんべんなく多い。



2) 利用者・見学者数

平日の利用者数(110 人)であり、20 施設中 4 位である。

休日の利用者数(230 人)であり、20 施設中 6 位である。

合計の利用者数(340 人)であり、20 施設中 5 位である。

3) 利用者アンケート調査

貝塚公園の利用目的で「ブランコ」を挙げた人は3人であった。

また、自由意見として以下の意見が挙げられた。

- ・ブランコがお気に入り
 - ・遊具がお気に入り(16件)(他の所にはない遊具がある、遊具がたくさんある等)
 - ・遊具が古い(6件)
 - ・新しい遊具が欲しい。(13件)
- ⇒幼児向け遊具(5件)

4) インターネット検索調査

インターネット検索調査内でのブランコの出現数は7件であった。

好評意見：ブランコなどがあり、子どもたちは好きな遊びを楽しめる(1件)

(3) 施設の劣化状況等

支柱部や梁部、吊り部、チェーン等の腐食が著しい。当該施設は、以下の項目が安全規
準((一社)日本公園施設業協会 2024年4月)に抵触する。((一社)日本公園施設業協会)

安全規準		現況
【安全領域】	運動方向、着座部が飛び出し可の時、落下高さ+1,500mm以上(=3860mm以上必要)確保すること。全領域重複不可	2,700mm
	境界柵は安全領域の外側に設けること。	内側にあり
	くぼみ・段差・石ころなどの障害物がないこと。	あり
【規準一般規定】		
⑪基礎の設計	基礎の天端は土かぶりを100mm以上確保すること。	0mm
	基礎の露出がないこと。	あり
	生命に関わる危険があるか、重度の傷害あるいは恒久的な障害をもたらしうるハザードに該当する箇所がないこと	あり
【規準】		
揺動部	吊り部材同士・支柱との間隔は、着地面より1,000mmの位置で650mm以上とすること。	間隔が十分 ない

1 1 鉄棒

(1) 施設概要と設置の背景

1) 規模・規格

3連鉄棒 高さ 0.9m、1.1m、1.3m 各幅 1.8m



2) 整備年

2010 年(平成 22 年)

3) 設置の背景

不明。

4) 補修歴

2021 年(令和 3 年)修繕(シャフトの固定)

(2) 現地踏査

1) 利用者数

利用者数は、平日が 8 人、休日が 119 人、計 127 人であった。利用者層は小学校低学年が多く 38%、次いで未就学児童が 25%となっている。時間帯としては、平日は午後からの利用しかないのに対し、休日は 9-17 時まで利用者がいる。休日の利用は 11-12 時が多い。



2) 利用者・見学者数

平日の利用者数(8人)であり、20施設中15位である。

休日の利用者数(119人)であり、20施設中11位である。

合計の利用者数(127人)であり、20施設中12位である。

3) 利用者アンケート調査

貝塚公園の利用目的で「鉄棒」を挙げた人は1人であった。

また、自由意見として以下の意見が挙げられた。

- ・鉄棒がお気に入り
 - ・遊具がお気に入り(16件)(他の所にはない遊具がある、遊具がたくさんある等)
 - ・遊具が古い(6件)
 - ・新しい遊具が欲しい。(13件)
- ⇒幼児向け遊具(5件)

4) インターネット検索調査

インターネット検索調査内での鉄棒の出現数は4件であった。

好評意見：鉄棒などがあり、飽きずに遊べる。(1件)

(3) 施設の劣化状況等

基礎が露出しており、一部腐食が見られるが、比較的健全な状態である。当該施設は、以下の項目が安全規準（（一社）日本公園施設業協会 2024 年 4 月）に抵触する。（（一社）日本公園施設業協会）

安全規準		現況
【規準一般規定】		
⑪基礎の設計	基礎の天端の土被りを 100 mm以上確保すること。	0mm
	基礎の露出がないこと。	あり

1 2 桜島の溶岩

(1) 施設概要と設置の背景

1) 規模・規格

φ 1.0m程度 3 個

【解説サインから転記】

桜島の溶岩はすべて安山岩で一般に暗黒色を呈し、ときには酸化作用のため赤褐色や紫黒色をしているものもあります。

大正噴火の溶岩だけでも堆積 15 億立方メートル、面積にして約 18 平方キロといわれ、このほか安永、文明、昭和の各年代層の溶岩が山脈から海中にかけて広大な台地を形成しています。 昭和 55 年 1 月 鹿児島県桜島町



2) 整備年

1980 年（昭和 55 年）

3) 設置の背景

桜島町（現：鹿児島市）からの寄贈により設置した。

4) 補修歴

記録なし。

5) 寄贈元の意向

- ・最近は貝塚公園のような寄贈実績はなく、過去の分も記録が残っていない。（鹿児島市（寄贈元の桜島町が合併））
- ・再整備に伴う施設の取り扱いは福岡市で判断してもらって良い。（鹿児島市（寄贈元の桜島町が合併））

(2) 現地踏査

1) 利用者数

利用者数は、平日が1人、休日が7人、計8人であった。利用者層は主に大人であり88%である。時間帯としては15-16時が多い。



2) 利用者・見学者数

平日の利用者数(1人)であり、20施設中19位である。

休日の利用者数(7人)であり、20施設中19位である。

合計の利用者数(8人)であり、20施設中19位である。

3) 利用者アンケート調査

利用者アンケートには名前は上がらなかった。

4) インターネット検索調査

インターネット検索調査内での桜島の溶岩の出現数は2件であった。

その他意見：なぜか桜島の溶岩がありました。(2件)

(3) 施設の劣化状況等

- ・劣化という概念が当てはまらないものである。
- ・人が乗るわけではないため、危険性はない。

1 3 日時計

(1) 施設概要と設置の背景

1) 規模・規格

日時計：φ36cm

台座：幅 62cm、奥行き 62cm、高さ 77cm

【サインから転記】

福岡東ロータリークラブ 10 周年記念 1980. 12. 25

【本体西側表示から転記】

タイムカプセルは 30・50・100 年等の後にここをタガネであけ、取り出し、再び元のママに収納し、セメントでふさぐ。その時点で追加も可。便は松ヤニと地ノ粉の半半を熱して、封をする。 日時計研究所 小原銀之助

【本体南側表示から転記】

人類が最初に知った科学は天体のうごきかたであった 日時計研究所 小原銀之助

【本体北側表示から転記】

福岡東ロータリークラブ会員名簿(以下略)



2) 整備年

1980 年（昭和 55 年）日時計を設置

2011 年（平成 23 年）タイムカプセルを封入

3) 設置の背景

福岡東ロータリークラブ設立 10 周年記念で設置した。

福岡東ロータリークラブ設立 40 周年記念にはタイムカプセルを封入した。

4) 補修歴

記録なし。

5) 寄贈元の意向

・先人の思いもあるので残してほしい。（福岡東ロータリークラブ）

(2) 現地踏査

1) 利用者数

利用者数は、平日が 16 人、休日が 11 人、計 27 人であった。利用者層は小学校低学年が多く 48%、次いで大人が 41%となっている。平日は午後からの利用しかないのに対し、休日は 10-11 時の利用に偏る。



2) 利用者・見学者数

平日の利用者数(16 人)であり、20 施設中 11 位である。

休日の利用者数(11 人)であり、20 施設中 18 位である。

合計の利用者数(27 人)であり、20 施設中 17 位である。

3) 利用者アンケート調査

利用者アンケートには名前は上がらなかった。

4) インターネット検索調査

インターネット検索調査内での日時計の出現数は 0 件であった。

(3) 施設の劣化状況等

- ・一部ビスの飛出し、縁石のぐらつきがあるが比較的健全な状態である。((一社)日本公園施設業協会)
- ・設置当初はカバーで保護されていたが、現在はカバーが撤去されている。

1 4 石碑

(1) 施設概要と設置の背景

1) 規模・規格

幅 2.6m、高さ 1.7m、奥行 0.8m 表示面幅 1.0m、高さ 0.7m

【本体表示から転記】

福岡市民のことは

- 一、自然を生かし、あたたかい心にみちたまちをつくりましょう。
- 一、教育をおもんじ、平和で愛し清新な文化のまちをつくりましょう。
- 一、生産をたかめ、くらしを豊かにし明るいまちをつくりましょう。
- 一、力をあわせ、清潔で公害のないまちをつくりましょう。
- 一、広い視野をもち、若さにあふれる市民のまちをつくりましょう。



2) 整備年

不明。

ゴーカート設計時（1973 年(昭和 48 年)）と推測される図面に記載があるため、その頃、あるいは、それ以前から整備されているものと考えられる。

3) 設置の背景

不明。

なお、市内には舞鶴公園などにも同様の石碑が設置されていた。

4) 補修歴

記録なし。

(2) 現地踏査

1) 利用者数

今回の調査では確認できなかった。

2) 利用者・見学者数

平日の利用者数(0 人)であり、20 施設中 20 位である。

休日の利用者数(0 人)であり、20 施設中 20 位である。

合計の利用者数(0 人)であり、20 施設中 20 位である。

3) 利用者アンケート調査

利用者アンケートには名前は上がらなかった。

4) インターネット検索調査

インターネット検索調査内での石碑の出現数は 0 件であった。

(3) 施設の劣化状況等

躯体にクラックが入っており、コンクリート表面は白華現象が生じ美観を損ねている。

15 人工池

(1) 施設概要と設置の背景

1) 規模・規格

133.9 m² (CAD 計測)

来園者のための修景施設として、公園のメイン入口に整備される。



2) 整備年

1967 年 (昭和 42 年)

3) 設置の背景

不明。

4) 補修歴

記録なし。

(2) 現地踏査

1) 利用者数

利用者数は、平日が 5 人、休日が 18 人、計 23 人であった。利用者層は未就学児童が多く 39%、次いで小学校低学年が 35%となっている。時間帯としては、平日は午後に偏り、休日は 10~17 時まで 3~6 人の利用者がいる。



2) 利用者・見学者数

平日の利用者数(5 人)であり、20 施設中 16 位である。

休日の利用者数(18 人)であり、20 施設中 17 位である。

合計の利用者数(23 人)であり、20 施設中 18 位である。

3) 利用者アンケート調査

利用者アンケートには名前は上がらなかった。

4) インターネット検索調査

インターネット検索調査内での人工池の出現数は0件であった。

(3) 施設の劣化状況等

- ・柵が腐食しており、縁石にクラックが入っている。((一社)日本公園施設業協会)
- ・施設の維持管理が困難なため、給水・循環設備の稼働を停止している。

16 観覧席

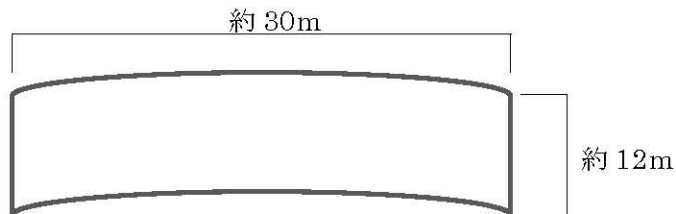
(1) 施設概要と設置の背景

1) 規模・規格

364.8 m² (CAD 計測)

幅約 30m、奥行き約 12m

ゴーカートの周回コースを見守るように広場中央に配置される。



2) 整備年

1973 年 (昭和 48 年)

3) 設置の背景

遠足などで交通ルールを学ぶ際に一学年全員が座って交通学習を受けられるように制作したものである。インターネット上で「かつての競輪場の観客席を利用したのではないか」との意見があるが、競輪場のコースを再利用したものではないと思う。(元福岡市公園緑地部長)

4) 補修歴

記録なし。

(2) 現地踏査

1) 利用者数

利用者数は、平日が 82 人、休日が 101 人、計 183 人であった。利用者層は大人が多く 39%である。時間帯としては、平日・休日共に 12-14 時に利用者が多くなる。

なお、観覧席はベンチとしての利用や、子どもたちの遊び場など、様々な活用がされていた。



2) 利用者・見学者数

平日の利用者数(82 人)であり、20 施設中 6 位である。

休日の利用者数(101 人)であり、20 施設中 13 位である。

合計の利用者数(183 人)であり、20 施設中 10 位である。

3) 利用者アンケート調査

利用者アンケートには名前は上がらなかった。

4) インターネット検索調査

インターネット検索調査内での観覧席の出現数は 5 件であった。

その他意見：お子さんがゴーカートで走っているところを眺められる席 (1 件)

(3) 施設の劣化状況等

柵(鉄製)が腐食しており、躯体全体(鉄筋コンクリート造)にクラックが入っている。((一社)日本公園施設業協会)

1 7 噴水

(1) 施設概要と設置の背景

1) 規模・規格

直径 5.0m、高さ 0.35m 噴水 3 基
周りに噴水と同じ素材のベンチが 3 基ある。



2) 整備年

1967 年（昭和 42 年）

3) 設置の背景

不明。
かつてはモニュメントがあったが、撤去されている。

4) 補修歴

記録なし

(2) 現地踏査

1) 利用者数

利用者数は、平日が 4 人、休日が 110 人、計 114 人であった。利用者層は大人が多く 46%である。時間帯としては、平日は 10-11 時にしか利用が見られないのに対し、休日は 9-17 時まで利用が見られる。また、休日は 13-14 時の利用が多い。

なお、噴水は眺めるよりベンチとしての利用が多く見られた。



2) 利用者・見学者数

平日の利用者数(4 人)であり、20 施設中 17 位である。
休日の利用者数(110 人)であり、20 施設中 12 位である。
合計の利用者数(114 人)であり、20 施設中 13 位である。

3) 利用者アンケート調査

利用者アンケートには名前は上がらなかった。

4) インターネット検索調査

インターネット検索調査内での噴水の出現数は1件であった。

(3) 施設の劣化状況等

維持管理・衛生面を考慮し、長い期間、水が出ないようにしているため、給水設備は使用不可と推測される。躯体に欠損もあるため、水を入れた場合、漏水する可能性がある。

18 ローラースケート場

(1) 施設概要と設置の背景

1) 規模・規格

コース全長 約 332m

面積 1287.5 m²(CAD 計測)

ベンチ L=21.6m(CAD 計測)

手摺 L=518.3m(CAD 計測)



2) 整備年

1989 年（平成元年）

3) 設置の背景

不明。

4) 補修歴

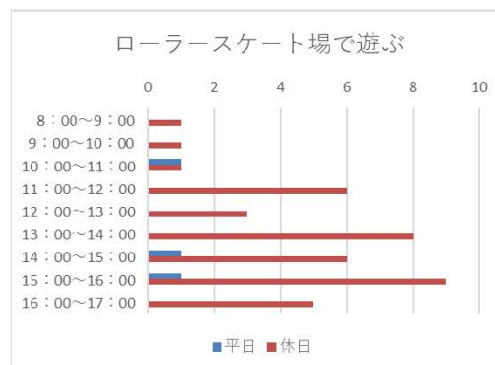
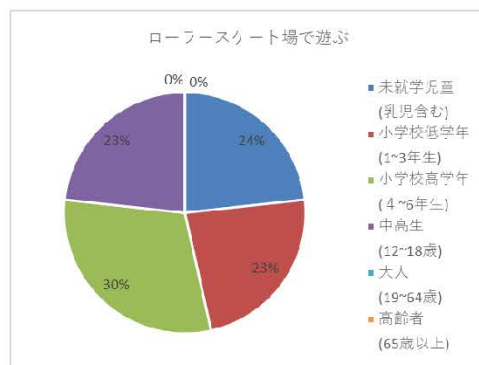
記録なし

以前は、用具のレンタルがあったが、サービスを取止めており、管理事務所とローラースケート場の一部は撤去済みである。

(2) 現地踏査

1) 利用者数

利用者数は、平日が 3 人、休日が 40 人、計 43 人であった。利用者層は小学校高学年が多く 30%、次いで未就学児が 24%、小学校低学年・中高生が共に 23%という結果になった。時間帯としては、休日は 15-16 時の利用が多い。



2) 利用者・見学者数

平日の利用者数(3人)であり、20施設中18位である。
休日の利用者数(40人)であり、20施設中16位である。
合計の利用者数(43人)であり、20施設中16位である。

3) 利用者アンケート調査

貝塚公園の利用目的で「ローラースケート」を挙げた人は1人であった。
また、自由意見として以下の意見が挙げられた。
・ブレイブボードができる
・ブレイブボードのコースを残して欲しい

4) インターネット検索調査

インターネット検索調査内でのローラースケート場の出現数は3件であった。
好評意見：ローラースケートが楽しめる(2件)

(3) 施設の劣化状況等

舗装材の劣化が進行しており、手摺は溶接部に腐食が見られる。また、休憩用のベンチは座板部の腐食が見られる。((一社)日本公園施設業協会)

19 徒渉池

(1) 施設概要と設置の背景

1) 規模・規格

長辺：約 22m、短辺：約 19m、約 320 m²



2) 整備年

不明。

ゴーカート設計時（1973 年（昭和 48 年））と推測される図面に記載があるため、その頃、あるいは、それ以前から整備されているものとする。

3) 設置の背景

不明。

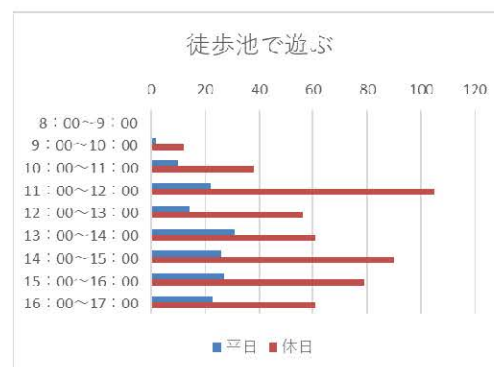
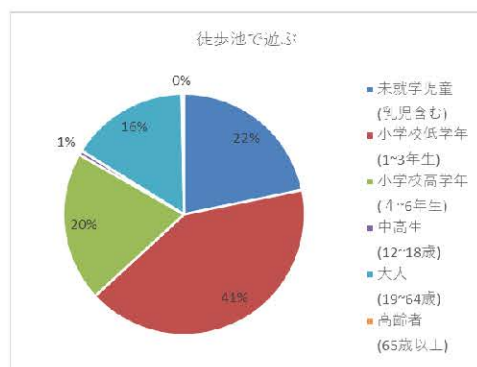
4) 補修歴

記載なし。

(2) 現地踏査

1) 利用者数

利用者数は、平日が 155 人、休日が 502 人、計 657 人であった。利用者層は小学校低学年が多く 41%、次いで未就学児童 22%となっている。時間帯としては、平日はあまり差が見られないのに対し、休日は 11-12 時に偏りがある。



2) 利用者・見学者数

平日の利用者数(155 人)であり、20 施設中 2 位である。

休日の利用者数(502 人)であり、20 施設中 2 位である。

合計の利用者数(657 人)であり、20 施設中 2 位である。

3) 利用者アンケート調査

貝塚公園の利用目的で「徒渉池」を挙げた人は0人であった。

また、自由意見として以下の意見が挙げられた。

- ・徒渉池をきれいに整備して欲しい (3件)
- ・夏は水のゾーンをジャブジャブ池化して欲しい

4) インターネット検索調査

インターネット検索調査内での徒渉池の出現数は5件であった。

好評意見：子どもたちは楽しそうにチャプチャプ水で遊んでいた (3件)

不評意見：水はあまりキレイではない (2件)

(3) 施設の劣化状況等

安全規準が確立されていない施設であるため、安全性が確認できない。かつてはアシカ型の吐出口から噴水が出ていたと思われるが、今は水が出る機能を止めている。水の循環機能が有効に稼働しておらず、雨水がたまり、衛生環境は悪い。

躯体は土管にクラックと塗装剥離が見られる。((一社)日本公園施設業協会)

20 レストハウス

(1) 施設概要と設置の背景

1) 規模・規格

建築面積 $12\text{m} \times 16\text{m} = 192\text{ m}^2$ (屋根面積 $14\text{m} \times 18\text{m}$)

机(大)8基、机(小)8基、丸机2基、イス86基



2) 整備年

不明。

ゴーカート設計時(1973年(昭和48年))と推測される図面に記載があるため、その頃、あるいは、それ以前から整備されているものとする。

3) 設置の背景

不明。

4) 補修歴

記録なし

(2) 現地踏査

1) 利用者数

利用者数は、平日が57人、休日が249人、計306人であった。利用者層は大人が多く47%、ついで未就学児童が33%となっている。時間帯としては、平日はあまり差がないのに対し、休日は11-12時と14-16時に偏りがある。



2) 利用者・見学者数

平日の利用者数(57 人)であり、20 施設中 10 位である。

休日の利用者数(249 人)であり、20 施設中 5 位である。

合計の利用者数(306 人)であり、20 施設中 6 位である。

3) 利用者アンケート調査

利用者アンケートには名前は上がらなかった。

4) インターネット検索調査

インターネット検索調査内でのレストハウスの出現数は 4 件であった。

好評意見:休憩スペースもあるので、そこでおやつを食べたりするのも楽しい(1 件)

(3) 施設の劣化状況等

支柱部にクラックが見られ、床部の亀裂やタイルの剥離が見られる。((一社)日本公園施設業協会)